# 歌麿の紫

## その名は・・・

## 「江戸絵師・紫屋歌麿」

*Kitagawa Utamaro*

# 歌麿の紫「その名は・・・江戸絵師・紫屋歌麿」

「ボストン美術館に秘蔵されていたウィリアム＆ジョン・スポルデインングコレクション（William S. and John T.Spaulding Collection）85年前アメリカの大富豪がボストン美術館に寄贈して以来、一度も展示されず封印されてきた6,500枚の浮世絵版画。しかも、そのすべてが変色・退色を免れ、江戸時代の色彩を鮮やかにとどめていた。喜多川歌麿の浮世絵が400枚、完全な形で残され、驚くべきは、女性の着物に鮮やかな紫色が惜しげもなく使われていた。紫は退色が激しく、歌麿が紫色にこれほどこだわっていたことは、今回初めて明らかになった」と2007年3月4日 NHKスペシャルで放映された「歌麿｜紫の謎」・・・ 歌麿の紫は日本でほとんどイエローがかったベージュに変色したり、或は褪色しているのが多い。私的な想像では、歌麿の紫は現存する色よりも、もっと鮮やかな「紫」ではなかったかとも思える・・・

喜多川 歌麿：きたがわ うたまろ・・・ 生年、出生地、出身地などは不明。Wikipediaでは(宝暦3年:1753年頃? ～文化3年:1806年陰暦9月20日）とある。初作は安永4年22才頃(1775年)に北川豊章の落款で描いた中村座の顔見世狂言に使われた富本正本「四十八手恋所訳」の表紙絵。翌年の「市川五粒名残り惣役者ほっくしう」その後「仮名手本忠臣蔵」の芝居絵本などの、芝居関係の絵師として生計を立てていたようで、天明元年(1781年)の28歳に、蔦屋重三郎によって刊行された、戯作者・清水燕十の黄表紙「身貌(みなり)大通神略縁起」で、はじめて歌麿と名乗り、ここから、蔦屋との親密な関係が出来上がり、歌麿のドラマが始まる・・・

当時、吉原生まれの蔦屋重三郎は、吉原大門の前に「耕書堂」と云う書店を開き、遊女の名を記した案内書のパンフレット「吉原細見」の販売や、天明期前後に天明狂歌と呼ばれる程、狂歌が爆発的な流行を見せた狂歌師・大田南畝(なんぽ)や戯作者・山東京伝たちの作品を巧みに売り出し、洒落本や狂歌本などのヒット作を次々に刊行、写楽をはじめ曲亭馬琴、十返舎一九などを世に送り出し、版元としての地位を確固たるものにし、吉原発信の江戸庶民文化の仕掛人としての地位を確立していた。そして狂歌名を蔦唐丸(つたからまる)と号し、歌麿も「紫屋」と号し吉原連に属している。 そして歌麿は、版元の蔦屋重三郎の援助を得て抜群の才を発揮し、当時一流の重政や清長を飛び越え「風流花之香遊」や「四季遊花之色香」を、寛政2年(1790年)～寛政3年(1791年)の頃から描き始め「婦女人相十品」「婦人相学十躰」といった、女性の胸部から上を描く「美人大首絵」で美人画を完成する。また「当時全盛美人揃」「高名美人六家撰」など当時評判の水茶屋の美人や遊女などの半身像や、江戸有名美人探し(プロマイド市場)を打ち立て、江戸市中の看板娘・・・おひさ、難波屋おきた、日の出家後家など、市中で大反響を巻き起こす。それら吉原発信の江戸庶民文化は、庶民に髪型や着物の柄や着付け、振る舞いやしぐさ、といった、幕府の長い鎖国で凝縮され、完成された日本文化が色濃くにじみ出ている。そしてそれは、ファッション雑誌の様に、今風のセレブ生活風俗？の様に、あるいは大衆紙や現代のコミック誌の様に、美が宮廷絵師の権力者的なものでは無く大衆の中から生まれ、とけ込んで行く姿でもあった・・・

時は・・・ 老中・松平定信による商業重視政策の否定「文武両道」を旨とする寛政の改革(1787～1793年)で風紀の取締りは厳しくなり、寛政3年(1791年)には山東京伝の洒落本・黄表紙が摘発され重三郎は財産を半分没収される過料、京伝は手鎖50日という処罰を受ける。そして浮世絵も、江戸の町名主から浮世絵などの改掛(あらためかかり)の名主が定められ「改」には、改掛(あらためかかり)の名主たちが交代で関わるようになった・・・狂歌が残っている・・・

「世の中に、蚊ほどうるさきものはなし、ぶんぶ(文武)といいて 夜も寝られず」 寛政５年(1793年)に町娘の名前禁止令と、浮世絵に対する禁令が相次ぐ中、歌麿はそれに反発し、文字に隠語や掛け言葉を含ませ、ヒントを与えた判じ絵で、したた

かに禁令の下をかいくぐって作品を発表する。しかし、寛政８年(1796年)に判じ絵の禁止令。そんな時、寛政9年(1797年)に版元の蔦屋重三郎が48歳で没。脚気(かっけ：文化文政期に「はやりやまい」と云われ大流行する)だと云われている・・・
古来から西洋では、貝から少量しか取れ無い貝紫は帝王紫と呼ばれ非常に貴重で高価な染料で有った。歌麿が使った紫は露草の青と紅を混ぜた染料で、しかも紫は江戸幕府が贅沢だということで庶民に使用を禁じた色。それに江戸幕府は眼を付ける。そして、江戸庶民の幕府に対する反官勢力と幕府体制とのせめぎ合いの中で、矢面に立たされていたかの様な動きを見せていた歌麿の絵。彼は文化1年(1804年)豊臣秀吉の醍醐の花見を題材にした浮世絵「太閤五妻洛東遊観之図」を描いたことで、幕府の逆鱗に触れ、手鎖50日の処分を受ける。出所後、歌麿は気力を失い、絵には張りは無く、緊張感も失われていく。そして彼は、描きに描き、精神も肉体もすべてを消耗し尽くし、ぼろぼろになりながら、2年後の文化3年(1806年）54年の生涯を終えた・・・

かって真実を守り抜いた人々は、あまたいる・・・ イタリア・ルネサンス期に思想の自由に殉じた、ジョルダーノ・ブルーノは宗教裁判で審問官に対し「私よりもこの判決を申し渡したあなたたちの方が恐怖に震えている」と叫び火刑に処され、その後天動説と地動説、ガリレオ・ガリレイも宗教裁判で「それでも地球は回っている」とつぶやく・・・真実は一つしか無い・・・
幕府への抵抗心をみなぎらせながら惜しげもなく使つた・・・歌麿が求め続けた「紫」・・・ 彼は最後の絵に、江戸絵師・紫屋歌麿 筆としるし、こだわり続けた「紫」の真実を刻み込んだ・・・

---

スポルデインングコレクション (↓抜粋サイト)
http://www.gei-shin.co.jp/sale/ukiyoe/utamaro/index1.html
「歌麿 抵抗の美人画 」(朝日新書)| 弐代目・青い日記帳　2009年2月16日
研究を進めていくうちに分かってきたのが、NHKスパシャルでも放映された歌麿が多用した「紫色」の謎。歌麿は自ら「江戸絵師 紫屋 歌麿」と作品に署名したこともあったほど紫色への強いこだわりがあった・・・
http://bluediary2.jugem.jp/?eid=1667
喜多川 歌麿：きたがわ うたまろ／宝暦3年(1753年)頃? ～ 文化3年9月20日(1806年10月31日)
江戸時代の日本で活躍した浮世絵師・・・
http://ja.wikipedia.org/wiki/喜多川歌麿
歌麿の自画像？／喜多川歌麿　1795～1800年頃「高名美人見たて忠臣蔵十二枚つづき」・・・
Komei bijin mitate Chushingura juni-dan tsuzuki 高名美人見たて忠臣蔵十二段つづき
(The Chushingura Travestied by Today's Great Beauties)AN598294001© The Trustees of the British Museum
http://www.britishmuseum.org/research/search_the_collection_database/
search_object_details.aspxobjectId=784607&partId=
1&searchText=utamaro&orig=/research/search_the_collection_
database.aspx&numpages=10&currentPage=19
鳥文斎栄之の哥麿之像について調べてたら歌麿の自画像の話が出てきた。 酒を強いられる男が背にする柱に「應求哥麿自艶彰写」とあり、羽織りの紋が「歌」と「麿」だそうで・・・
http://yajifun.tumblr.com/post/570145700/komei-bijin-mitate-chushingura-juni-mai-zukushi
蔦屋 重三郎：つたや じゅうざぶろう／寛延3年1月7日(1750年2月13日)～寛政9年5月6日(1797年5月31日)朋誠堂喜三二、山東京伝らの黄表紙・洒落本、喜多川歌麿や東洲斎写楽の浮世絵などの出版で知られる。「蔦重」ともいわれる。狂歌名を蔦唐丸(つたのからまる)と号し、歌麿とともに吉原連に属した ・・・
http://ja.wikipedia.org/wiki/蔦屋重三郎
吉原大門の前に「耕書堂」と云う書店・・・
http://webup08.jp/tutaya/images/kibyousi.jpg
「耕書堂書堂」年表／絵に見える蔦屋 重三郎／遊郭／用語の説明・・・
http://webup08.jp/tutaya/index.htm
http://ja.wikipedia.org/wiki/吉原細見

歌麿と「婦女人相十品」「婦人相学十躰」

http://www.rakuten.ne.jp/gold/adachi-hanga/baren/column/c030.htm

喜多川 歌麿 「高名美人六家撰」

http://www.adachi-hanga.com/ukiyo-e/item/utamaro_6kasen.htm

寛政の改革（かんせいのかいかく）

http://ja.wikipedia.org/wiki/寛政の改革

ジョルダーノ・ブルーノ（Giordano Bruno,1548年-1600年2月17日）

http://ja.wikipedia.org/wiki/ジョルダーノ・ブルーノ

ガリレオ・ガリレイ（Galileo Galilei、ユリウス暦1564年2月15日 - グレゴリオ暦1642年1月8日）

http://ja.wikipedia.org/wiki/ガリレオ・ガリレイ

（注意：本文中のリンクがPDFおよびePubではうまく動作しない場合があります ）

Copyright©guchini All Rights Reserved